

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月8日

【四半期会計期間】 第169期第1四半期
(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

【会社名】 凸版印刷株式会社

【英訳名】 TOPPAN PRINTING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 金子 眞 吾

【本店の所在の場所】 東京都台東区台東一丁目5番1号

【電話番号】 03(3835)5111(大代表)
(上記は登記上の本店所在地で実質的な本社業務は下記で行っている。)

【事務連絡者氏名】 経理部長 久保 蘭 到

【最寄りの連絡場所】 (本社事務所)
東京都千代田区神田和泉町1番地

【電話番号】 03(3835)5660

【事務連絡者氏名】 経理部長 久保 蘭 到

【縦覧に供する場所】 凸版印刷株式会社本社事務所
(東京都千代田区神田和泉町1番地)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第168期 前第1四半期 連結累計期間	第169期 当第1四半期 連結累計期間	第168期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	363,179	352,302	1,532,042
経常利益 (百万円)	9,206	3,402	37,717
四半期(当期)純利益 (百万円)	4,111	2,261	20,621
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	17,012	969	52,407
純資産額 (百万円)	898,936	906,781	913,107
総資産額 (百万円)	1,634,665	1,697,260	1,712,351
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	6.40	3.52	32.12
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)		3.15	31.10
自己資本比率 (%)	46.8	45.8	45.7

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 第168期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）におけるわが国経済は、金融政策や財政政策などにより、円安・株高の傾向が継続しており、全体としては緩やかな回復傾向にあった。しかしながら、円安に伴う原材料・エネルギー価格の上昇や、新興国経済の停滞など、引き続き景気の下振れ懸念があり、依然として先行きの不透明な状況で推移している。

印刷業界においては、インターネット広告や電子書籍などの新しい市場が順調に拡大する一方で、依然として出版市場の縮小傾向の継続や、一部に消費税増税による反動減や競争激化に伴う単価下落の影響もあり、全体を通しては厳しい経営環境となった。

このような環境のなかでトッパングループは、21世紀の企業像と事業領域を定めた「TOPPAN VISION 21」に基づき、「グループを含めた構造改革の遂行」、「新事業・新市場の創出」、「グローバルな事業展開の加速」を重要な経営課題と位置付け、グループ一体となって収益体制の強化に取り組んできた。新たな収益モデルを早期確立すべく、既存事業においては競争優位性の確立とコスト削減を推進し、新規事業においては成長分野に対して積極的に経営資源を投入してきた。この一環として、平成26年4月には国内包装材生産拠点のマザー工場と位置づける群馬センター工場を竣工した。生産性の向上による供給体制の強化と、クリーンな生産環境・高度な品質管理・最先端のセキュリティ体制による安心・安全な製品の提供によって強固な事業基盤を確立するとともに、新技術・新製品を国内外に展開していく。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ3.0%減の3,523億円となった。また、営業利益は77.4%減の11億円となり、経常利益は63.0%減の34億円となった。四半期純利益は45.0%減の22億円となった。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の状況は以下のとおりである。

情報コミュニケーション事業分野

セキュア関連では、ICカードは需要が一段落し前年を下回ったものの、帳票類などは前年を上回った。

ビジネスフォーム関連では、ビジネスフォームは、電子化に伴う需要量の減少などはあったものの、企業のシステム変更に伴う帳票改訂や周辺印刷物の取り込みなどにより、前年を上回った。データ・プリント・サービスは、プリント業務に付帯する事務処理を含めたBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）受託の増加などにより、前年を上回った。

マーケティング関連では、チラシ、パンフレット・カタログなどは前年を下回ったものの、SP関連ツールは前年を上回った。電子チラシサイト「Shufoo!（シュフー）」は、ユーザー数など規模の拡大に伴い、自治体のオフィシャル広報メディアとして採用されるなど業種業界を広げ、事業機会の拡大を図った。

コンテンツ関連では、出版市場が依然として縮小傾向で推移するなか、雑誌・書籍ともに前年を下回った。一方で電子書籍市場においては、Book Liveは、日本最大の総合書籍プラットフォームの創出を目指し、紙や電子といった形式にとらわれない「新たな読書体験」をお客様に提供すべく、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社との戦略的パートナーシップの基本合意を結ぶなど各種施策を推進し、事業の拡大に注力している。

以上の結果、情報コミュニケーション事業分野の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ0.4%増の2,102億円、営業利益は4.3%減の52億円となった。

生活環境事業分野

パッケージ関連では、消費税増税による駆け込み需要の反動で一部受注量の減少はあったものの、「スタンディングパウチ」や流通向けを含む食品包装材などの軟包装パッケージ、及びプラスチック製品は増加した。透明ハイバリアフィルム「GLフィルム」を活用した紙製飲料缶「カートカン」は、採用アイテムの拡大により堅調に推移した。また、群馬センター工場の竣工を機に、包装材事業の構造改革を加速し、国内外の市場を視野に入れた新技術・新製品の開発を推進するため、積極的投資を行った。

以上の結果、生活環境事業分野の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ1.5%増の697億円、営業利益は37.1%減の17億円となった。

マテリアルソリューション事業分野

ディスプレイ関連では、カラーフィルタは、中小型サイズはスマートフォンなどのモバイル向けを中心に堅調に推移したものの、テレビ向けは減少し、前年を下回った。

半導体関連では、フォトマスクは、新興国向けスマートフォンやタブレットを中心に半導体市場が堅調に推移したものの、先端品の需要は低迷し、前年を下回った。高密度半導体パッケージ基板のFC-BGA基板は、国内外の需要を積極的に取り込み、順調に推移した。

高機能・エネルギー関連では、太陽電池関連部材は、厳しい市場環境の影響を受け、前年を下回った。

建築材関連では、消費税増税の影響により住宅着工が減少傾向にあるなか、「トッパンエコシート」などの環境配慮型製品や、米国を中心とした海外需要を取り込み、堅調に推移した。

マテリアルソリューション事業分野の主要品種においては、市場の成熟化や得意先業界の内製志向の影響を受けたが、販売・製造体制の抜本的な見直しなどの事業構造改革を行うとともに、技術の優位性を活かした高付加価値製品へのシフトなど、事業ポートフォリオの再構築を進めている。

以上の結果、マテリアルソリューション事業分野の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ13.1%減の812億円、営業利益は77.1%減の6億円となった。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ150億円減少し、1兆6,972億円となった。これは棚卸資産が57億円、現金及び預金が55億円、それぞれ増加したものの、受取手形及び売掛金が288億円減少したことなどによるものである。

負債は、前連結会計年度末に比べ87億円減少し、7,904億円となった。これは退職給付に係る負債が53億円増加したものの、支払手形及び買掛金が77億円、未払法人税等が42億円、それぞれ減少したことなどによるものである。

純資産は、前連結会計年度末に比べ63億円減少し、9,067億円となった。これはその他有価証券評価差額金が15億円増加したものの、利益剰余金が53億円、為替換算調整勘定が23億円、それぞれ減少したことなどによるものである。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について、重要な変更はない。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりである。

会社の支配に関する基本方針

株式会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要

当社においては、当社の社会的使命を十分に理解し、専門性の高い業務知識や営業ノウハウを備えた者が取締役役に就任し、法令及び定款の定めを遵守しつつ当社の財務及び事業の方針の決定に携わることが、当社及び当社株主の共同の利益に資するものと考えている。

不適切な者による支配の防止のための取組みの概要

当社取締役会は、不適切な者による当社の支配を防止する観点から、当社の株式に対する買収提案がなされた場合、その内容が妥当か否かを当社株主が適切に判断できるよう、大規模買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠であると考えます。

そのため、平成19年6月28日開催の第161回定時株主総会の決議によって、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為を行おうとする者に対して、事前に当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、当社取締役会が当該情報を検討するために必要である一定の評価期間が経過した後のみ大規模買付行為を開始できることを要請する「大規模買付者による情報提供及び当社取締役会による対抗措置の発動に関するルール」の導入を決定している。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、特別委員会の勧告を最大限に尊重したうえで、当社及び当社株主全体の利益を守ることを目的として、新株予約権の発行等、会社法その他の法律及び当社定款により認められる対抗措置をとり、当該大規模買付行為に対抗する場合がある。

また、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当社取締役会の評価として当該大規模買付行為が当社及び当社株主全体の利益を著しく損なうと判断した場合には、同様に対抗措置をとることがある。

なお、当該ルールは、有効期限の到来に伴い、平成22年6月29日開催の第164回定時株主総会及び平成25年6月27日開催の第167回定時株主総会において、その更新を決議している。

上記の取組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、上記の取組みが上記の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保するための取組みであり、当社株主全体の利益を損なうものではないと考える。

また、当社は、取締役会によって恣意的な判断がされることを防止し、判断の合理性及び公正性を担保するために、当社取締役会から独立した機関として特別委員会を設置している。特別委員会は、大規模買付行為を評価・検討し、特別委員会としての意見を慎重にとりまとめ、当社取締役会に対して勧告する。上記の取組みには、新株予約権無償割当等、会社法その他の法律及び定款により認められる対抗措置をとる場合には特別委員会の勧告を最大限尊重し、当社及び当社株主の共同の利益を守ることを目的とすることが定められており、取締役の地位の維持を目的とするものではない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）全体の研究開発費は4,644百万円である。

(5) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画は、次のとおりである。
 (新設)

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
Toppan USA, Inc.	アメリカ合衆国ジョージア州	マテリアルソリューション事業分野	高機能部材関連製造工場	9,500	1,062	自己資金	平成26年12月	平成28年6月

(注)上記金額には、消費税等は含まれていない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,700,000,000
計	2,700,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	699,412,481	699,412,481	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株である。
計	699,412,481	699,412,481		

(注) 提出日現在の発行数には、平成26年8月1日からこの四半期報告書提出日までの転換社債型新株予約権付社債の権利行使により発行された株式数は含まれていない。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年6月30日		699,412		104,986		117,738

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項なし。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 54,815,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 640,641,000	640,641	
単元未満株式	普通株式 3,956,481		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	699,412,481		
総株主の議決権		640,641	

- (注) 1 「単元未満株式」欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が500株含まれている。
2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が773株含まれている。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 凸版印刷株式会社	東京都台東区台東一丁目 5番1号	54,815,000		54,815,000	7.84
計		54,815,000		54,815,000	7.84

2 【役員状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	182,373	187,932
受取手形及び売掛金	398,105	369,236
有価証券	134,133	134,432
商品及び製品	36,159	38,532
仕掛品	31,297	34,176
原材料及び貯蔵品	20,459	20,986
その他	38,337	37,024
貸倒引当金	4,184	3,884
流動資産合計	836,681	818,436
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	263,012	260,294
機械装置及び運搬具（純額）	115,593	112,065
土地	138,254	138,211
建設仮勘定	23,528	29,772
その他（純額）	12,902	12,682
有形固定資産合計	553,291	553,027
無形固定資産		
その他	22,855	23,638
無形固定資産合計	22,855	23,638
投資その他の資産		
投資有価証券	229,844	231,125
その他	71,830	73,265
貸倒引当金	2,151	2,231
投資その他の資産合計	299,523	302,158
固定資産合計	875,669	878,823
資産合計	1,712,351	1,697,260

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	276,595	268,868
短期借入金	15,537	15,907
1年内返済予定の長期借入金	14,296	14,769
未払法人税等	7,360	3,113
賞与引当金	17,835	7,935
その他の引当金	685	381
その他	87,840	98,869
流動負債合計	420,152	409,845
固定負債		
社債	125,338	125,012
新株予約権付社債	80,327	80,311
長期借入金	93,921	91,862
その他の引当金	1,443	1,304
退職給付に係る負債	46,595	51,916
その他	31,464	30,227
固定負債合計	379,091	380,633
負債合計	799,243	790,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	104,986	104,986
資本剰余金	117,738	117,738
利益剰余金	591,157	585,777
自己株式	56,004	56,014
株主資本合計	757,877	752,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,070	34,574
繰延ヘッジ損益	51	21
為替換算調整勘定	2,073	4,454
退職給付に係る調整累計額	5,856	5,409
その他の包括利益累計額合計	25,191	24,732
少数株主持分	130,037	129,561
純資産合計	913,107	906,781
負債純資産合計	1,712,351	1,697,260

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	363,179	352,302
売上原価	303,378	298,847
売上総利益	59,801	53,454
販売費及び一般管理費		
運賃	9,251	7,561
貸倒引当金繰入額	19	112
役員報酬及び給料手当	19,033	18,687
賞与引当金繰入額	2,690	2,497
役員賞与引当金繰入額	105	108
退職給付費用	1,312	924
役員退職慰労引当金繰入額	76	68
旅費	1,597	1,654
研究開発費	3,700	3,453
その他	17,125	17,494
販売費及び一般管理費合計	54,873	52,338
営業利益	4,927	1,115
営業外収益		
受取利息	182	176
受取配当金	2,129	2,346
持分法による投資利益	1,175	1,159
その他	2,841	659
営業外収益合計	6,328	4,342
営業外費用		
支払利息	888	691
その他	1,161	1,364
営業外費用合計	2,049	2,055
経常利益	9,206	3,402

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
特別利益		
固定資産売却益	18	30
投資有価証券売却益	114	1,228
持分変動利益	108	515
退職給付制度改定益	419	-
特別利益合計	661	1,774
特別損失		
固定資産除売却損	614	134
投資有価証券評価損	52	257
投資有価証券売却損	72	0
関係会社整理損	1,302	-
関係会社特別退職金	17	180
特別損失合計	2,058	572
税金等調整前四半期純利益	7,809	4,604
法人税、住民税及び事業税	1,805	1,592
法人税等調整額	1,511	814
法人税等合計	3,316	2,406
少数株主損益調整前四半期純利益	4,492	2,197
少数株主利益又は少数株主損失()	381	63
四半期純利益	4,111	2,261

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,492	2,197
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,029	1,647
繰延ヘッジ損益	45	29
為替換算調整勘定	7,575	3,180
退職給付に係る調整額	-	16
持分法適用会社に対する持分相当額	870	350
その他の包括利益合計	12,520	1,228
四半期包括利益	17,012	969
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,412	1,801
少数株主に係る四半期包括利益	1,600	832

【注記事項】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)	
(会計方針の変更)	
<p>「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を主としてポイント基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更している。</p> <p>退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減している。</p> <p>この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が4,109百万円増加し、利益剰余金が1,860百万円減少している。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微である。</p>	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

(1) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対する保証

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
Advanced Mask Technology Center GmbH & Co.KG	2,478百万円 * 1	2,697百万円 * 2

上記*1及び*2は外貨建保証債務額であり、*1については前連結会計年度末日の為替相場により、*2については当第1四半期連結会計期間末日の為替相場により、それぞれ円換算している。

* 1 2,478百万円 (17,500千ユーロ)

* 2 2,697百万円 (19,500千ユーロ)

(2) 従業員住宅借入金に対する保証

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
	2百万円	1百万円

(3) 勤労者財産形成促進法に基づく従業員の銀行からの借入金に対する保証

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
	1百万円	1百万円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
	420百万円	277百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
減価償却費	14,930百万円	14,221百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 取締役会	普通株式	5,802百万円	9円00銭	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月29日 取締役会	普通株式	5,801百万円	9円00銭	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	情報コミュニ ケーション 事業分野	生活環境 事業分野	マテリアル ソリューション 事業分野	計		
売上高						
外部顧客への売上高	206,867	66,403	89,909	363,179		363,179
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,602	2,361	3,552	8,516	8,516	
計	209,469	68,764	93,461	371,696	8,516	363,179
セグメント利益(営業利益)	5,497	2,705	2,862	11,065	6,137	4,927

(注) セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 6,143百万円等が含まれている。
全社費用は、主に当社の本社部門及び基礎研究部門等にかかる費用である。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントの区分は、前連結会計年度において「情報・ネットワーク系事業」「生活環境系事業」「エレクトロニクス系事業」としていたが、当第1四半期連結会計期間より「情報コミュニケーション事業分野」「生活環境事業分野」「マテリアルソリューション事業分野」に変更している。

これは、平成25年4月にエレクトロニクス事業本部と高機能事業本部を統合し、マテリアルソリューション事業本部を新設したことで、従来「生活環境系事業」に含まれていた「高機能部材事業」「建装材事業」を「エレクトロニクス系事業」と統合する新体制が発足したことに伴うものである。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	情報コミュニ ケーション 事業分野	生活環境 事業分野	マテリアル ソリューション 事業分野	計		
売上高						
外部顧客への売上高	207,656	67,031	77,614	352,302		352,302
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,637	2,732	3,612	8,982	8,982	
計	210,294	69,763	81,227	361,285	8,982	352,302
セグメント利益(営業利益)	5,262	1,701	654	7,618	6,502	1,115

(注) セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 6,517百万円等が含まれている。
 全社費用は、主に当社の本社部門及び基礎研究部門等にかかる費用である。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を変更したことに伴い、事業セグメントの退職給付債務及び勤務費用の計算方法を同様に変更している。

当該変更が当第1四半期連結累計期間のセグメント利益に及ぼす影響は軽微である。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	6円40銭	3円52銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	4,111	2,261
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	4,111	2,261
普通株式の期中平均株式数(千株)	642,088	641,979
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益		3円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)		10
(うち支払利息(税額相当額控除後)(百万円))		(10)
普通株式増加数(千株)		73,126
(うち新株予約権付社債(千株))		(73,126)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

平成26年5月29日開催の取締役会において、第168期末期配当に関し、次のとおり決議した。

- (1) 期末配当による配当金の総額・・・・・・・・・・・・ 5,801百万円
- (2) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・ 9円00銭
- (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・ 平成26年6月30日

(注) 平成26年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者に対し、支払を行う。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 7 日

凸版印刷株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 寛 人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福田 秀 敏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 武田 良 太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている凸版印刷株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、凸版印刷株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。